

別紙

I. 事業評価総括表（令和元年度）

（単位：円）

番号	措置名	交付金事業の名称	交付金事業者名	交付金事業に要した経費	交付金充当額	備考
1	地域活性化事業	深良用水通水350周年記念事業	裾野市	3,036,000	3,036,000	総事業費 3,289,200

（備考）事業が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること。

II. 事業評価個表（令和元年度）

番号	措置名	交付金事業の名称
1	地域活性化事業	深良用水通水350周年記念事業
交付金事業者名		裾野市
交付金事業実施場所		裾野市佐野
交付金事業の概要		深良用水通水350周年記念誌を市内学校、関係行政機関、関係団体へ配布するため2,000冊作成する。当該記念誌を電子書籍化し、一般に公開する。 「世界かんがい施設遺産深良用水」の価値と郷土の魅力を理解する人材を育成するため、小学校の学習教材として活用できるよう、電源立地地域対策交付金を活用して記念誌を作成する。電子書籍として一般に公開し、裾野市の魅力を発信していく。
交付金事業に関する市町の主要政策・施策とその目標		交付金事業に関する主要政策・施策 第4次裾野市総合計画後期基本計画（平成28年度～令和2年度） 施策の大綱2 成長するよろこびと地域のつながりで心の豊かさを育む「すその」 2-5文化の振興・保存 ・郷土の誇りである富士山や深良用水などについて学習する場の提供を図ります。 施策の大綱5 今ある魅力と資源を再発見し、未来へつなげる「すその」 5-5地域資源磨き・魅力発信の推進 ・市内の資源を発掘し、画像や映像などを用いて国内外に効果的に発信することで、裾野ファンを広げます。 目標 市民意識調査において「住み続けたい」と答える市民の割合80%（令和2年度）
事業開始年度		令和元年度
		事業終了（予定）年度
		令和元年度

事業期間の設定理由	単年度で事業が完了するため。					
交付金事業の成果目標及び成果実績	成果目標	成果指標		単位	評価年度	令和2年度
	裾野市に住み続けたいと答える市民の割合 80%	住み続けたいと回答した者÷裾野市内在住者意識調査(20歳以上男女無作為抽出1,000人)の回答者(%)	成果実績	%		
			目標値	%	80.0	
			達成度	%	0.0%	
	評価年度の設定理由					
	事業実施年度の翌年度の意識調査結果を基にするため(令和2年10月調査結果公表予定)。					
	交付金事業の定性的な成果及び評価等					
評価に係る第三者機関等の活用の有無						
無						
交付金事業の活動指標及び活動実績	活動指標			単位	元年度	年度
	記念誌の作成部数		活動実績	冊	2,000	
			活動見込	冊	2,000	
			達成度		100.0%	#DIV/0!
交付金事業の総事業費等	令和元年度	年度	年度	備考		
総事業費	3,289,200					
交付金充当額	3,036,000					
うち文部科学省分						
うち経済産業省分	3,036,000					
交付金事業の契約の概要						
契約の目的		契約の方法		契約の相手方		契約金額
記念誌原稿執筆者・編集編集員報償費		委嘱		執筆者・編集委員4名		715,200
記念誌編集・印刷製本等業務委託		指名競争入札		文光堂印刷(株)		2,574,000
交付金事業の担当課室	行政課					
交付金事業の評価課室	行政課					

- (備考)
- (1) 事業ごとに作成すること。
 - (2) 番号の欄には、事業評価総括表における番号欄に対応した数を記入すること。
 - (3) 交付金事業の概要の欄は、事業内容、必要性、期待される効果等を記載すること。
 - (4) 交付金事業に係る市町の主要政策・施策とその目標の欄は、当該事業が関連づけられている当該都道府県又は市町村の上位政策・施策とその目標を記載すること。
 - (5) 事業期間が複数年度にわたる事業については事業期間の設定理由を記載すること。
 - (6) 成果目標及び成果指標の欄は、交付金事業に係る市町の主要政策・施策とその目標を踏まえて定量的に記載すること。当該事業の定量的評価が困難な場合には、成果目標の欄に、定性的な目標を、交付金事業の定性的な成果及び評価等の欄に、定性的な成果及び評価を記載すること。
 - (7) 評価年度及び評価年度の設定理由の欄は、交付金事業の内容、成果目標及び成果指標を踏まえ記載すること。
なお、交付金事業の評価に第三者機関等を活用する場合、評価年度の設定には当該機関等による評価実施時期も考慮すること。
 - (8) 成果実績の欄は、評価年度に成果指標に基づき測定した数値を記載すること。ただし、評価年度が到来していない場合は、成果実績の欄は空欄とし、評価年度に別途、報告を行うこと。
なお、成果実績を別途報告する際に、交付金事業の評価に第三者機関等を活用する場合には、当該機関等による評価についても、併せて報告を行うこと。
 - (9) 交付金事業の定性的な成果及び評価等の欄は、上記(6)の定量的評価が困難な場合における定性的な成果及び評価の記載のほか、成果実績が目標値に達しない場合の要因分析及び次年度に向けた改善点並びに評価に第三者機関等を活用した場合には当該機関等の評価を記載すること。
 - (10) 評価に係る第三者機関等の活用の有無の欄については、第三者機関等を活用した場合には、第三者機関等の名称及び構成員等を記載すること。
 - (11) 交付金事業の活動指標及び活動実績の欄は、当該事業の進捗度、利用量等の活動量を記載すること。
 - (12) 交付金事業の契約の概要の欄は、契約件数が二つ以上の場合には必要に応じ欄を設けること。
 - (13) 交付金事業の担当課室の欄は事業を実施した課室を、交付金事業の評価課室の欄は事業評価を実施した課室の名称を記載すること。事業実施課室と評価実施課室が同一でも差支えない。